

2021年度 経営学部セミナー 実施報告

経営学部 研究推進委員会

2021年度経営学部セミナーでは下記の研究報告等(10件)がなされたことを報告します。

1. 2021年度第1回経営学部セミナー

キャリアの創り方 ―会計・監査関連業務の変化を踏まえて―

EY新日本有限責任監査法人 マネージャー/公認会計士 佐潟 直弥 先生

日時：2021年6月19日(土) 10時50分～12時20分

場所：文教大学 東京あだちキャンパス 1305教室

[オンラインでのライブ配信]

内容：講師に佐潟直弥先生をお招きし「キャリアの創り方 ―会計・監査関連業務の変化を踏まえて―」と題し、「公認会計士とは?」、「会計・監査について」、そして「キャリアの創り方」という3パートでご講演をいただきました。第1の「公認会計士とは?」のパートでは、公認会計士という職業や、公認会計士の使命・職責についてご説明のうえ、公認会計士という資格が有するキャリアの多様性について言及。第2の「会計・監査について」のパートでは、会計や株式会社の仕組みを概観し、公認会計士の独占業務である会計監査について、詳細に説明。加えて、公認会計士という職業の魅力について、①人との関わりの中で成長できること、②様々な企業(業種)の内側がみられること、③女性が活躍しやすいこと、④グローバルに活躍できること、⑤プロフェッショナルとしての無限の可能性を有すること、の5点を示しました。さらに、近年、公認会計士業界に起こっている「変化」に関連して、「公認会計士という職業がAIやロボットに置き換えられるのか」という大変興味深い論点についても共有できました。第3の「キャリアの創り方」のパートでは、自身の大学生活や、社会人経験を振り返りつつ、人生100年時代とも呼ばれる現代において、大学生がどのように自身のキャリアをデザインしていくべきかという観点から、キャリアの創り方のヒントを提示。「世の中は知らないことだらけであること」を認識しておくことの重要性を強調したうえで、有限の時間に対するタイムマネジメントにより自身のキャリア形成や成長機会の創出を行い続けることの必要性の理解につながりました。講演後の質疑応答では、7名の学生から質問が行われ、その質問に対するご見解を共有いただき、力強い期待や応援のメッセージとともに、拍手喝采の中終了しました。なお、参加者は約75名(学生約70名、教員3名)でした。

2. 2021年度第2回経営学部セミナー

SNSにおける発言しないユーザーの影響力の実証研究

文教大学 経営学部 松井 彩子 先生

日時：2021年6月30日（水） 15時30分～16時45分

場所：文教大学 東京あだちキャンパス 3302教室

内容：講師に松井 彩子先生をお招きし、「SNSにおける発言しないユーザーの影響力の実証研究」と題し、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) 上での非発言者の影響力を実証的に明らかにする一連の研究内容についてわかりやすくご講演をいただきました。マーケティングにおけるインフルエンサーと呼ばれる影響力のある発言者に着目した既存研究に対し、積極的な発言はしないが「いいね」や「リツイート」による行動をとるユーザー層に着目し、消費者間情報伝達の社会的影響を科学的に示す興味深いトークが提供されました。紹介された一連の研究により個人の集積の持つ影響力に関する議論の基盤が整備されてきている状況に触れるきっかけとなり刺激の多いセミナーとなりました。その参加者への刺激が引き金となり講演後の質疑応答では、非発言者の捉え方や社会心理学としての視点、そして、公開データと実験手法の新たなアイデアなど活発な意見交換がなされました。なお、参加者は6名〈教員6名〉でした。

3. 2021年度第3回経営学部セミナー

向き合い方次第で生まれる“成長の機会”—会計・監査関連業務を通して—

EY 新日本有限責任監査法人 後藤 彩風 先生

日時：2021年7月17日（土） 10時50分～12時20分

場所：文教大学 東京あだちキャンパス 1305教室

[オンラインでのライブ配信]

内容：講師に後藤彩風先生をお招きし、「向き合い方次第で生まれる“成長の機会”—会計・監査関連業務を通して—」と題し、これまでの公認会計士としてのご経験に基づき、「働くということ」、「自分を知ること」という2つのパートを設けてご講演をいただきました。第1の「働くということ」のパートでは、働くことが「自分を大きくする成長の機会」であるという中心軸にして話が展開。自身が仕事をするこの意義を「将来の選択肢を増やすこと」、「豊かな人間になること」、そして「世の中を知ること」の3つに求め、働くことはあくまでも自身の人生をより豊かにするための「手段」であり、「目的」ではないということを強調されました。第2の「自分を知ること」のパートでは、自身の大学生活や、社会人経験を振り返りつ

つ、ジョハリの窓診断を例にとり、「自分に見ている自分」と「他者から見えている自分」の間に存在する差異を識別・分析し、他者の認識を素直に受け入れることで、より客観的に自分のよさを知ることができる」と説明。とりわけ、「盲点の窓」と呼ばれる「自分自身は気づいていないが、他者は認識している自分」のことに気づくことが、まだ見ぬ自分の特徴の発見、その後の人生にとって重要な要素になり得ることを紹介していただきました。そして、キャリアを積むことは、「自分自身の人間性を磨き続けること」であり、自分のことをしっかりと知りながら、どのような出来事にも受け身ではなく能動的かつ前向きに向き合うことで、成長の機会をいくらかでも増やすことができるというメッセージをくださいました。講演後の質疑応答では8名の学生から質問が行われ、その質問に対する後藤先生のご見解を共有いただき、力強い期待や応援のメッセージとともに、拍手喝采の中終了しました。なお、参加者は約75名〈学生約70名、教員2名〉でした。

4. 2021年度 第4回 経営学部セミナー

オープンイノベーション3.0

— 中国のスマートフォンメーカーにみるイノベーションの潮流 —

文教大学 経営学部 田中 克昌 先生

日時：2021年7月28日(水) 15時30分～16時45分

場所：文教大学 東京あだちキャンパス 3302教室

内容：講師に田中 克昌 先生をお招きし、「オープンイノベーション3.0 —中国のスマートフォンメーカーにみるイノベーションの潮流—」と題し、企業が経営資源の制約を超えて価値を創造するオープンイノベーションを実践する有効性について明らかとする一連の研究内容についてわかりやすくご講演をいただきました。特に事例研究として採用したオープンイノベーションを活用し急速な事業拡大と進化を遂げる中国のスマートフォンメーカーの事業戦略についての緻密な考察を通じ、企業はどのようにオープンイノベーションを実践し成長を実現しているかとの基盤的な問いに正面から応えていく研究成果が示され、経営学の最前線での理論が実際に企業活動に影響を与え実践されている状況に触れる刺激の多いセミナーとなりました。その参加者への刺激が引き金となり講演後の質疑応答では、オープンイノベーション研究と経営者（経営陣）が採用する戦略との関係や課題へのアプローチ手法など様々な角度からの意見交換が展開されました。

5. 2021年度 第5回 経営学部セミナー

21世紀の経営倫理とコロナ後の就職・キャリア企画

慶応ビジネススクール 客員教授/元米国商務参事官・領事 八木 エドワード 先生

日時：2021年11月2日（火） 16時30分～17時30分

場所：オンライン開催

内容：講師に八木エドワード先生をお招きし、ご専門の経営倫理の問題や学生に向けて国際社会で活躍するためのアドバイスをいただきました。講演では倫理学が社会の合意や規範であることから始まって、そこから始まった社会ルールの範囲や許容される行為について論じました。はじめに、その例のひとつとして、死刑制度を廃止した国が増加し、さらにEUなどの国際組織に加入する条件となり、世界標準になっていく経緯が国際化に伴う基準の統一化と同じ流れであることが紹介されました。経営倫理も国際化の流れに伴い変化するものであることを分かりやすく伝えていただきました。次に、集団倫理をコミュニティにおいて守るべきルールという観点から国際化における様々な交流におけるイベントに基づいてそのルールが変化することを指摘し、八木先生がご提案されたモデルを使って統合的に論じていただきました。さらに、倫理に反する行動で職を失った政治家の事例を提示しながら、法律と倫理（道徳性）が必ずしも一致せず、その際の社会的罰則が状況によって異なる場合があるなど興味深い事例が示されました。さいごに、先生のご自身の体験からこれからグローバル社会に歩み出す学生向けに有益なアドバイスをいただきました。なお、参加者は15名〈学生13名、教員1名、一般1名〉でした。

6. 2021年度 第6回 経営学部セミナー

キャリアとしてコンサルティングを考える

株式会社 ベイカレント・コンサルティング マネージャー/公認会計士 藤沢 雄治 先生

日時：2021年11月6日（土） 10時50分～12時20分

場所：文教大学 東京あだちキャンパス 2302教室

[オンラインでのライブ配信]

内容：講師に藤沢雄治先生をお招きし、「キャリアとしてコンサルティングを考える」と題し、「コンサルティングとは」、「コンサル業界におけるキャリア」、「コンサル業界における会計スキルの活かし方」、「キャリアを構想するヒント」という4つのパートを設けてご経験に基づきご講演をいただきました。第1の「コンサルティングとは」のパートでは、コンサルティングを「企業の医者」に例えて、「企業経営における課題（患部）を特定し、解決に向けた打ち

手（治療法）を提案し、打ち手（治療）を実行する」仕事であると例示。第2の「コンサル業界におけるキャリア」のパートでは、プロジェクト単位のアサイン制度であることや徹底した実力主義であることに触れ、Up or Out（昇進するか出ていくか）といった一面も業界の文化を説明。また、ひとえにコンサルティングといっても、そのキャリアパスは一様ではなく、多岐に渡ること言及。第3の「コンサル業界における会計スキルの活かし方」のパートでは、企業経営における全プロセスにおいて、財務会計は必須のスキル（知識）であることを強調して、会計スキル（知識）をもったうえで、戦略的にキャリアを構想する必要がある、どのフィールドであれば自身のスキルを効果的に活かせるかを考えることが大事とのこと。第4の「キャリアを構想するヒント」のパートでは、目的思考（人生の目的と必要な条件を踏まえ次のステップを決める思考法）、仮説思考（現時点でわからないことに仮の答えを持って進む思考法）、及び比較思考（常に複数の選択肢を持ち、変化へ備える思考法）という3つの戦略的思考法を紹介。さらに、ご自身が新社会人の頃、常に100%の品質を求めていたがゆえに視野が狭くなってしまっていたことを振り返り、完璧主義でいることよりも、完璧でなくても様々なことに挑戦し、視野を広げることも大切であるというメッセージが寄せられました。講演後の質疑応答では、5名の学生から質問が行われ、ご見解を共有いただき、力強い期待や応援のメッセージとともに、本講演は拍手喝采の中終了しました。なお、参加者は約160名（学生約160名、教員1名）でした。

7. 2021年度 第7回 経営学部セミナー

多様な働き方 ―資格を武器に独立した経験を踏まえて―

西桜税理士法人 代表社員 公認会計士/税理士 櫻井 賛 先生

日時：2021年11月13日（土） 10時50分～12時20分

場所：文教大学 東京あだちキャンパス 2302教室

[オンラインでのライブ配信]

内容：講師に櫻井賛先生をお招きし、「多様な働き方 ―資格を武器に独立した経験を踏まえて―」と題し、経験に基づき、「働き方は1つではない！」というキーメッセージを軸に「就業形態の変遷と多様化」「私の事例」「まとめ」という3つのパートを設けてご講演をいただきました。第1の「就業形態の変遷と多様化」のパートでは、従来の日本型雇用システム（例えば、終身雇用、年功序列および企業別組合等）が、バブルの崩壊、少子化、IT化および新型コロナウイルスの蔓延等により、変容し続けていることを説明。すべてのビジネスパーソンにとって、個々人の「スキル」（換言すれば、資格ともいえる）が今後より重要になる可能性が高いことを強調されました。第2の「私の事例」のパートでは、①大学時代に公認会計士試験の受験を志した「受験時代」、②公認会計士としての「監査法人勤務時代」、③監査法人退職後

の「独立開業時代」の3つに分けて、大学生が自身のキャリアについて考えるうえで、重要になる考え方（企業勤務と独立のメリット・デメリット等）を提示。例えば、受験時代においては、「自身のやる気さえあれば必ず道は拓ける」といった話や、独立開業後、金銭的安定が得られなかった頃を乗り越えて様々な業務を受注できるようになるまでの葛藤などについては、特に力強いメッセージでした。第3の「まとめ」のパートでは、現代社会では様々な働き方が許容されていることを強調。例えば、企業勤務、独立開業および起業のみならず、企業に勤務しながら個人のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方をすることや、副業をする働き方なども出てきていることが示されました。さいごに、「様々な働き方の選択肢がある中で、最終的に自身に合った働き方を見つけて、仕事もプライベートも充実した人生を歩んでいただきたい」という思いを伝えられ、そのためには、今できる限りの努力をして自分だけの「スキル」を身に付け、将来の働き方の選択肢を少しでも広げておくことが大切だというメッセージがありました。講演後の質疑応答では、6名の学生から質問が行われ、ご見解を共有いただき、力強い期待や応援のメッセージとともに、拍手喝采の中終了しました。なお、参加者は約160名（学生約160名、教員1名）でした。

8. 2021年度 第8回 経営学部セミナー

ヨーロッパの一員としてのスペインの経済・文化と位置づけについて

スペイン貿易庁 ジャイル・モレーノ 先生

日時：2021年11月27日（土） 15時～16時

場所：文教大学 東京あだちキャンパス

[オンラインでのライブ配信]

内容：講師にジャイル・モレーノ先生をお迎えし、スペインの経済と貿易の現状やヨーロッパにおける雇用問題の現状についてご講演をいただきました。先生が所属するスペイン貿易庁はスペインの物産・サービスの輸出、スペインへの投資を促進するための組織で日本のJETRO（日本貿易振興機構）に相当し、世界85か国に事務所を持つ大きな組織です。ご講演はまずスペイン経済やスペインへの海外からの投資の現状から始まりました。スペインのGDPは1.2兆ドル程度と世界14位、EUでは2位の経済規模を誇る国家で、海外からの投資の一定割合は中南米に進出する企業からの投資で構成されている点が紹介されました。これは、中南米に投資を行うとき、スペイン経由で行くと税金が安くなるためであり、非常に特殊な例とのこと。一方で、スペインの貿易相手の大半はEU圏内の国々で、その意味でEUに依存した「単一経済」である現状を、さらに対日輸出はあまり大きくなく、豚肉、医薬品などの従来からスペインに強みのある物産品に加え、近年では風力発電のための風車部品など高度な技術を要する製品の輸出も増えていると示されました。その後、文化の位置づけに話は展

開し、「生活の質」調査ではスペインは世界1位、観光資源に関する調査も世界2位と特徴を有すること。企業の構成比率は中小企業が高く、いわゆる「残業文化」があるなど日本と似ている部分が例示されました。さいごに、スペインが抱える課題についても言及があり、その一つとして雇用問題が取り上げられました。大学を卒業した新卒者は日本のようにすぐに就職して給料を受け取ることができず数か月の無休研修を受ける必要があること、新卒者の就職枠が存在せず既卒者との激しい競争に巻き込まれ若年層の就職率がとても低くなっている現状が示されました。このような現状を踏まえ、これからスペインを始めとするヨーロッパに進出する若者には十分な業務経験とキャリアを身につけることが勧められました。なお、参加者は15名〈学生14名、教員1名〉でした。

9. 2021年度 第9回 経営学部セミナー

タイと日本のビジネス関係、そしてタイの出版の歴史

ソムムット出版社/早稲田大学大学院 ウィパーウィークン・クリッタポン 先生

日時：2021年12月21日(土) 10時50分～12時20分

[オンラインでのライブ配信]

内容：講師にウィパーウィークン・クリッタポン先生をお迎えし、「タイと日本のビジネス関係、そしてタイの出版の歴史」と題し、ASEANやタイの経済と貿易の現状、日本の東南アジア進出の変化、タイにおける出版ビジネスについてご講演をいただきました。まず、ASEANと日本の関係を紹介。日本をはじめとした先進国はこれまでコストの安さなどの理由で中国に進出し工場を稼働させていましたが、近年の投資コストの上昇から「チャイナプラスワン」と呼ばれる投資の分散を行い、ASEAN諸国への投資比重が高まっており日本とASEANの結びつきは強くなっている点が示されました。次に、タイについて解説。タイの国情、タイ文化の多様性から、経済・社会に話題は移り、成長の鈍化、高齢化社会、発展は都市部や工業地帯に集中し、国内での貧富の格差などの経済や社会問題について共有されました。日本との経済面でのつながりについては、日本からの進出について工業中心からサービス中心への移行している背景が示されました。さいごに、タイ出版史そして出版ビジネスについて解説。日本は雑誌優位構造である一方でタイは書店優位構造であること、日本は再販制度などのとした集团的取引慣行が優位である一方でタイは競争優位な業界であることなど、出版ビジネスの違いについて興味深い指摘がなされました。なお、参加者は9名〈学生6名、教員3名〉でした。

10. 2021年度 第10回 経営学部セミナー

損益分岐点分析雑感

文教大学 経営学部 志村 正 先生

日時：2022年1月28日(金) 13時30分～14時30分

場所：文教大学 東京あだちキャンパス 3302教室

[オンラインでのライブ配信]

内容：講師に志村正先生をお迎えし、「損益分岐点分析雑感」と題しご講演をいただきました。

ご講演は損益分岐点分析の歴史を織り交ぜながら、固定費と変動費の取り扱い方を巡る学術的な問題意識の概観が紹介され、その中から今後取り組むべきリサーチ・クエスションの方向性が整理され示されました。管理会計、そして、原価計算の学問的な面白さがストレートに伝わってくる刺激の多いセミナーとなりました。その刺激が引き金となり講演後の質疑応答では、人件費の取り扱い方への考え方や企業活動を捉える指標へのアイデアなど活発な意見交換がなされました。さいごに、志村先生から本学情報学部への着任、そして、経営学部に至る大学での経験を踏まえたご挨拶をいただき、今回のご講演に加え、永年のご活躍に対する拍手喝采の中終了しました。なお、参加者は8名〈教員8名〉でした。